

医療的ケア児と家族の夢を寄付で応援

<申請団体一覧>

公益財団法人お金をまわそう基金

受付番号	団体名	所在地	事業名	事業概要（様式13申請する事業の事業概要から抜粋）
1	公益社団法人 ア・ドリーム・ア・ デイ IN TOKYO	東京都品川区	医療的ケア児と ご家族の集い・分か ち合い事業	弊会は13年に渡って、90組450名の難病児とご家族を東京旅行へ招待してきた。中でも医療的ケアが不可欠なお子さんは日々の外出にも苦勞し、介護にあたる家族や幼いきょうだいの社会との接点を失いやすい。反面、旅行を契機に前向きな気持ちを取り戻した家族や他の家族を応援したいという気持ちの家族も増えており、彼らが地元で集まって他の家族を励ます場を増やし、より多くの家族をサポートすることを目指す。 また、他の病児支援団体の力を貸りて、それぞれが強みを活かして幅広く家族をサポートできるプログラムを作り、各地に家族が気軽に集まれる場を提供するネットワークを作りたいと考えている。家族同士が気軽に集まれる場が各地で増え、ゆくゆくは家族が自発的な共助のコミュニティーになっていくことを目指している。 さらに、各地の企業やスポーツチームとの連携を進めて病児と家族の支援者を増やし、助成終了後も継続的な事業にすることを目指す。過去の受け入れ実績のない地域で2日間のプログラムを実施し、翌年のフォローアップの集いを実施して各地でプログラムの定着を図り、病児と家族が孤立しない地域をつくる。
2	特定非営利活動法 人アンリッシュ	東京都中央区	医療的ケア児及びそ の家族の同行支援事 業	医療的ケア児とその家族を対象にした「旅行支援事業」を立ち上げる。医療的ケア児はその医療への依存度の高さ・体調の不安定さから外出や非日常体験が困難な現状がある。医療的ケア児家族が自由に外出や宿泊ができる社会の実現に向けて、旅行プランの作成・必要なサポートを行う。 同時に宿泊先となる施設や、利用する公共交通機関などに対しても、受け入れサポートを行う。 年間10組のサポートを目標とし、サポート後は医療的ケア児家族自身で旅行を立案・実行できる。 宿泊先や地域も積極的に医療的ケア児を受け入れる体制構築ができる状態を目指す。また、アンリッシュのメイン事業であるメディアを通して、旅行の様子や家族インタビューを配信し、社会の認知度向上にも寄与する。
3	公益社団法人 難病の子どもとそ の家族へ夢を	東京都中央区	外出が困難な難島在 住の医療的ケア児と 家族の応援プロジェ クト！	現在、日本では周産期医療技術向上により、乳児の死亡率が著しく低下している分、小児の療養環境や在宅医療の課題は、年々、多様になってきているが、特に医療的ケアが必要な子どもの子育て、母親への支援や家族支援に関するニーズが十分に把握されず、社会から孤立、介護、療育等で疲弊する母も多くなる状態である。 特に沖縄県の難島などでは、物理的な立地等の問題もあり、フォーマルや社会資源もインフォーマルな社会資源も活用しにくい状況にあるのが実情であり、複合的な課題を抱えている。そこで、本事業においては、モデルケースとして沖縄の難島を含め、立地的に外出が困難であったり、社会資源の活用がしにくい地域の医療的ケア児とその家族をサポートするプログラムとして、家族全員が経済的、精神的苦痛なく、家族全員旅行に無償で招待する活動や、実際に様々な属性の人たちと一緒に交流する機会を作ることで、より孤立感を持つことなく、豊かな生活を送っていかれるような支援を確立していくものとする。本事業を難島における医療的ケア児と家族の応援モデルケースとして捉え、将来的には、各県の難島や僻地での展開ができるようにして行く所存である。
4	特定非営利活動法 人みかんぐみ	東京都杉並区	医療的ケア児や重度 障害児とその家族の 笑顔満開プロジェク ト	年々増加傾向にある医療的ケア児や重複障害を抱える重度心身障害児とその家族に対して、様々な活動を通しての当事者間交流、地域内交流を促進し、当事者が地域で孤立することなく様々な経験を積み重ねていける環境づくりを目指す。 具体的には、以下の事業を計画する。 ・親子イベントを開催（杉並区を中心として音楽コンサートや制作イベントを実施） ・障害児の家族（ケアラー）に対する在宅就労支援 ・障害児者とその家族の高いQOL（Quality of Life）先進事例の視察研修とその報告会 ・障害の有無によらず誰でも参加できる、地域住民を含めた交流機会の創出 ・当事者とその家族の想い、夢の実現として大型の旅行を企画 すべての事業において、当事者の体調面、安全面に配慮し医療従事者・福祉職との連携をしっかりと行い実施する。
5	特定非営利活動法 人Lino	東京都東村山	重症心身障害者と家 族の学びの場の確保 と生活の充実を図る	社会生活の充実を図る為、ボランティアスタッフや医師・看護師などの医療職付き添いにより、医療機器の使用や医療的ケアを必要とする方を含む重症心身障害児・者の外出や移動支援・旅行支援を行う。 ・重症心身障害者が日常生活に充実感を得られるために、商業施設と連携をはかり、毎月一回映画の上映会を開催。当法人とボランティアのサポーター、広報を担当するNPO法人が運営を担う。毎回、重症心身障害児者と家族約80～150人が参加する予定。1年間960～1800名の参加者。現在のところ、重症心身障害者が映画館で映画を見る事は、通常の客席では見る事が困難であったので、毎月開催という定期的に継続している映画上映会開催は、画期的である。5月・10月に沖縄ツアーを開催する。重症心身障害者その家族14名、当法人3名とボランティアのサポーター5名、広報を担当するNPO法人の担当者1名と計23名参加予定数。沖縄県金武町にある、日本で唯一の海洋リハビリ学科で学んだ専門スタッフ指導の下、海洋リハビリテーションプログラムの実施を行う。旅行支援の際には、きょうだい児の支援も視野に入れ、適宜スタッフは保育士も参加し家族のサポートを強化する。